

黒点根腐病

病原菌名 *Colletotrichum atramentarium*
発生作物 ナス(米ナス、小ナス)

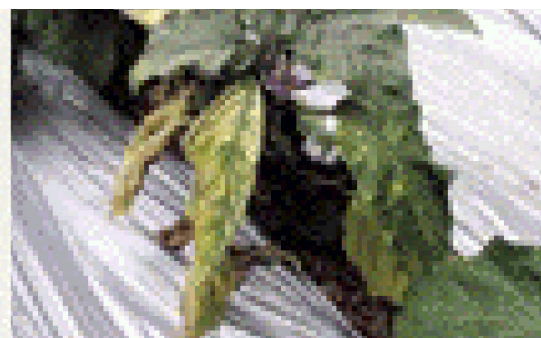
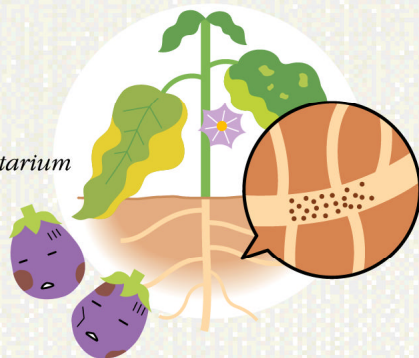


写真11:発病株

発生経過

平成18年5月に高知県中西部の雨よけ栽培の米ナス、小ナスで、下葉の黄化や株の萎凋が発生しました。高知県農業技術センター生産環境部において調査をしたところ、本県ではこれまで発生が確認されていない*Colletotrichum atramentarium*による黒点根腐病でした。県内で本病の発生が確認されているのは、今のところ同地域だけです。

病徴

初めは下葉から黄化し、その後生長点部分以外の株全体が黄変萎凋して、生育が著しく悪くなり、さらに病勢が進むと枯死します(写真11)。株は根及び地際部が侵され、罹病した株の主根には、褐色から淡褐色のひびわれたような病徴を生じ(写真12)、やがて多数の小黑点(剛毛を伴う分生孢子層)が形成されます(写真13)。そして、そのまわりの細根は淡褐色に腐敗し、脱落します。



写真12:根の症状

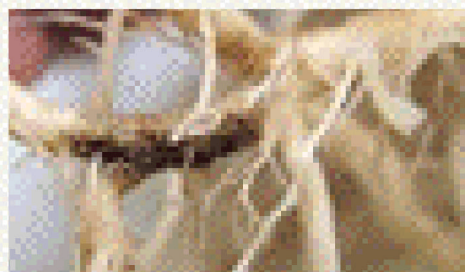


写真13:根の黒点

病原菌の形態・性質

糸状菌の1種で不完全菌類に分類され、PDA培地上では白色の菌叢を形成し、のちに黒色の分生孢子層を散生します。生育適温は20～28℃で、ナス科植物に病原性があり、ナス以外ではトマト、ピーマンの黒点根腐病やジャガイモの炭疽病が知られています。

伝染

罹病した根などの残さや有機物などとともに土壌中で生存、越冬し、分生孢子等により伝染します。

防除対策

- 1 発病株は今後の伝染源となることから、できるだけ土壌中へ残さないように丁寧に除去し、ほ場外へ出す。
- 2 発生が見られたほ場では土壌消毒を行う。また、ナス科以外の作物との輪作あるいは他科作物への転作を行う。

病害虫防除所では、
農作物の病害虫や防除対策、また農業に関する最新情報を提供しています。

高知県病害虫防除所公式ホームページアドレス

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/byoki/boujoshou/>

高知県病害虫防除所 〒783-0023 高知県南国市廿枝1100
TEL:088-863-1132 FAX:088-863-7470

E-mail:160523@ken.pref.kochi.lg.jp

平成19年3月